

成績や家庭学習状況など生徒の情報を一元化 進路検討会で共有し一人ひとりの進路を考える

下関西高校（山口・県立）

下関西高校は毎年100人を超える
国公立大学現役合格者を輩出する県内
有数の進学校。しかし、10年以上前は、学
年やクラスによって進路指導にバラつき
があるという意見も少なくなかった。そ
こで、2005年度より、学年主導の進路
指導を校内で統一し、組織的な進路指
導体制に変換し、指導の標準化を徹底。
現在も取り組みは続いている。

進路指導を標準化するため 毎学期、進路検討会を開催

同校では原則、面談（二者）→進路検
討会→三者懇談という流れを毎学期く
り返す。進路検討会とは学年別に開かれ
る会議で、各担任、校長、教頭、進路部長
は必ず出席。教科担当者や新任の先生
にもなるべく出席してもらう。「指導の
標準化にあたって、私たちが最も大切に
しているのが情報の共有です。生徒のデ
ータや進路に関するデータ、教員のスキル
やアイデアを共有し、学校全体の財産と
しています。そして情報を共有するため

の場所が進路検討会です」と言うのは、
進路指導部部長の大塚睦之先生。進路
検討会では、各担任が生徒の情報を持ち
寄り、その場にいる全員で一人ひとりへの
進路指導の方向を考えていく。3年生は
毎学期全員の生徒、1・2年生は2学期
のみ全員、1・3学期は担任が選んだ生徒
が対象となる。

このとき、その場にいる全員が資料と
して持っているのが、各生徒の情報をA4
用紙1枚にまとめたもの。面談用に調査
した進路希望や家庭学習時間、通塾状
況のほか、これまでの外部模試の結果や
中間・期末の成績、現在どのように指導
して、どのような課題があるかなどが記
載されている。外部模試のデータを取込
み、進路指導部員が成績などの最新デー
タを打ち込めば、反映されたものが印刷
されるようになっていく。前任の進路指
導部長が、指導の標準化を徹底するた
めに市販のデータベースソフトを使って始
めた方法で、大塚先生はその志とともに
システムを引き継いだ。

検討会の効果は大きい。まず、担任は

生徒一人ひとりについて会議でどのよう
にコメントするか考えるため、生徒理解が
深まる。そして、成績は悪くないのにモチ
ベーションが上がらない生徒、もつと志望
校を上げることができそうな生徒、授業
についていくのが厳しくなってきた生徒
など、さまざまな生徒について話し合
われる場合は、特に経験の少ない若い先生
にとっては貴重である。また、新任の先生
にも同校の進路指導の方針を事例を通
して伝えることができる。そして共有し
た指導の方針について、続く三者懇談で



進路指導部 部長
大塚睦之先生

「学校の方針」として明確に保護者に伝
えることもできるため、保護者の信頼も
得やすい。もちろん、生徒にも自信をもつ
て指導ができる。

「今後もこのシステムが形骸化しないよ
う運営していきたい」と大塚先生。一人ひ
とりの生徒を学校として指導すること
で、生徒の向上心をアップさせ進路実現
を図っていききたい考えだ。

進路検討会議資料

ダウンロード可

こちらは2年生の12月の会議のもの。模擬試
験成績推移表、通知票、指導の記録（現在の
最重要課題、問題解決のための具体的対策、
当面の目標設定）、学習時間・塾、志望大学推
移が記入されている。検討会議の資料としてで
だけでなく、三者懇談で保護者に示したり、部活
動の顧問にも見せる。保護者とも信頼関係を
築きながら、学校全体で生徒一人ひとりをてい
ねにみていくための生徒データだ。

School Data

1920年創立／普通科・理数科／生徒数709人（男
子404人・女子305人）／大学合格者数（2014年
度実績） 大学378人・中学校2人・短大2人・専門
学校3人